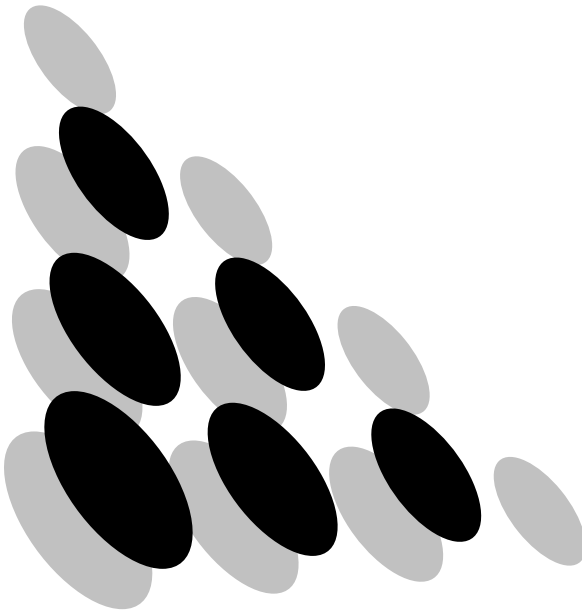


PRIMERGY

外付けDLT装置(40GB)
(PGSDL401)

取扱説明書



はじめに

このたびは、PRIMERGY（プライマジー）用 外付けDLT装置（40GB）をお買いあげいただき、まことにありがとうございます。

本製品はサーバのデータをバックアップするための補助記憶装置です。

本書は、外付けDLT装置（40GB）（以下、本製品）の取り扱いの基本的なことがらについて説明しています。

お使いになる前に本書をよくお読みになり、正しい取り扱いをされますようお願いいたします。

2001年7月

安全にお使いいただくために

本書には、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。

本製品をお使いになる前に、本書を熟読してください。特に、本書の冒頭の「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解された上で本製品をお使いください。

また、本書は、本製品の使用中にいつでも参照できるよう大切に保管してください。

安全上のご注意

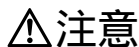
本装置を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。

本書では、いろいろな絵表示をしています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解の上、お読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使用しています。



感電

△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容(左図の場合は感電注意)が示されています。



分解

⊙で示した記号は、してはいけない行為(禁止行為)であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が示されています。



プラグ

で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください)が示されています。



警告



感電

必ず電源を接続する前にアース接続をしてください。アース接続ができない場合は、弊社担当保守員にご相談ください。アース接続しないで使用すると、万一漏電した場合に、感電・火災の原因となります。



窒息

梱包に使用しているビニール袋はお子様が口に入れたり、かぶって遊んだりしないよう、ご注意ください。窒息の原因となります。

感電



万一、装置から発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生した場合は、ただちに装置本体の電源スイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が消えるのを確認して、弊社担当保守員に修理をご依頼ください。

お客様自身による修理は危険ですから絶対におやめください。

異常状態のまま使用すると、感電・火災の原因となります。

感電



異物 水・金属片・液体などが装置の内部に入った場合は、ただちに装置本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

その後、弊社担当保守員にご連絡ください。

そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

感電



装置を落としたり、カバーなどを破損した場合は、装置本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

その後、弊社担当保守員にご連絡ください。

そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。

感電



装置の上または近くに「花びん・植木鉢・コップ」などの水が入った容器、金属物を置かないでください。

感電・火災の原因となります。

感電



台所など湿気・ほこり・油煙の多い場所、通気性の悪い場所、火気のある場所に置かないでください。

故障・感電・火災の原因となります。

感電



風呂場、シャワー室などの水場で使用しないでください。

感電・火災の原因となります。

感電



表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。

また、タコ足配線をしないでください。

感電・火災の原因となります。

感電



近くで雷が起きた時は、電源コードをコンセントから抜いてください。

そのまま使用すると、雷によっては装置を破壊し、感電・火災の原因となります。

感電



付属の電源コード以外は使用しないでください。

感電・火災の原因となります。

感電



装置に水をかけたり、濡らしたりしないでください。

感電・火災の原因となります。

感電



濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。

感電の原因となります。

感電



電源コードを傷つけたり、加工したりしないでください。

重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると電源コードを傷め、感電・火災の原因となります。

感電



電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込み口がゆるい状態では使用しないでください。

そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。

修理は弊社担当保守員にご依頼ください。

発火



電源プラグの金属部分、およびその周辺にほこりが付着している場合は、乾いた布でよく拭いてください。

そのまま使用すると、火災の原因となります。

感電



開口部(通風孔など)から内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落としたりしないでください。

感電・火災の原因となります。

感電



装置本体のカバーや差し込み口についているカバーは、取りはずさないでください。

内部の点検、修理は弊社担当保守員にご依頼ください。

内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。

感電



装置をお客様自身で改造しないでください。
感電・火災の原因となります。

⚠️ 注意

発火



装置の開口部(通風孔など)をふさがないでください。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

けが



装置の上に重いものを置かないでください。また、衝撃を与えないでください。
バランスが崩れて倒れたり、落下したりしてけがの原因となることがあります。

けが



振動の激しい場所や傾いた場所など、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

発火



直射日光の当たる場所や炎天下の車内など、高温になる場所に長時間放置しないでください。
高温によってカバーなどが加熱・変形・溶解する原因となったり、装置内部が高温になり、火災の原因となることがあります。

感電



電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜いてください。
電源コードを引っ張ると、電源コードの芯線が露出したり断線したりして、感電・火災の原因となることがあります。

発火



電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。
火災・故障の原因となります。

発火



使用中の装置は布などでおおったり、包んだりしないでください。
熱がこもり、火災の原因となることがあります。



発火

電源コードを束ねて使用しないでください。
発熱して、火災の原因となることがあります。



感電

装置を移動する場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。また、接続ケーブルなどもはずしてください。

作業は足元に十分注意して行ってください。

電源コードが傷つき、感電・火災の原因となったり、装置が落ちたり倒れたりしてけがの原因となることがあります。



発火

長時間装置を使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災・故障の原因となることがあります。

梱包物を確認してください

ご使用いただく前に、次のものが梱包されていることをお確かめください。

外付けDLT装置（40GB）

100V用電源ケーブル（2m）× 1

Wide SCSIケーブル（1m）× 1

終端抵抗 × 1

取扱説明書（本書）× 1

データカートリッジ × 1

クリーニングカートリッジ × 1

保証書

DLTリーフレット × 1

電源アダプタプラグ（3P 2P）× 1

万一、不備な点がございましたら、おそれいりますが、お買い求めの販売店または弊社担当保守員までお申し付けください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

DLT および DLTtapeはクアンタム・コーポレーションの商標です。

会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。

All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 2001

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

目次

1 取扱い上の注意	1
2 使いかた	2
2.1 外観および各部の名称	2
2.2 各部の機能	3
2.3 ドライブ番号の設定	6
2.4 接続のしかた	7
2.5 操作方法	8
3 運用について	12
4 カートリッジについて	14
5 仕様	17

1 取扱い上の注意

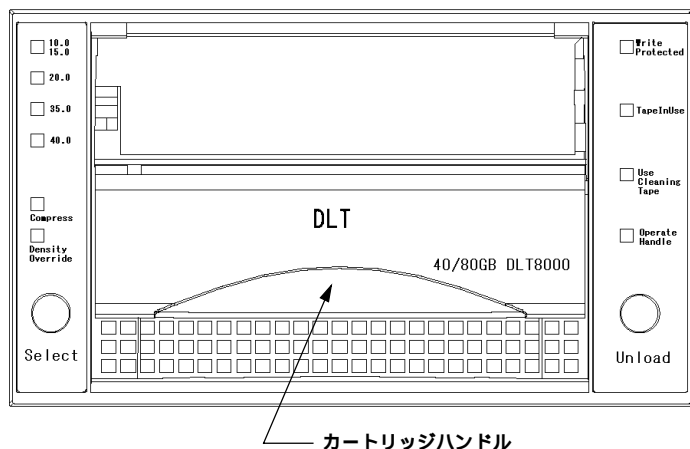
本製品は精密機器ですので、以下のことに注意してください。

- ・ 極端な高温や低温の場所、または温度変化の激しい場所での保管は避けてください。
- ・ 直射日光のあたる場所や発熱器具のそばには近づけないようにしてください。
- ・ 衝撃や振動の加わる場所での保管は避けてください。
- ・ 湿気やほこりの多い場所での使用は避けてください。
- ・ 内部に液体や金属など異物が入った状態でお使いにならないでください。もし、何か異物が入ったときは、弊社担当保守員にご相談ください。
- ・ 本製品前面の汚れは、やわらかい布でからぶきするか、布に水または中性洗剤を含ませて、軽くふいてください。ベンジンやシンナーなど揮発性のものは避けてください。
- ・ 寒い場所から暖かい場所に移動したり、室温を急に上げたりした直後は、内部が結露する場合があります。結露したままお使いになると、本製品やデータカートリッジを損傷することがあります。大きな温度変化があったときは、24時間以上待ってから電源を入れてください。
- ・ お使いにならないときや電源を切断するときは、本製品からデータカートリッジを取り出してください。また、データカートリッジを入れたまま本製品を持ち運ばないでください。
- ・ 本製品を分解したり、解体したりしないでください。

2 使いかた

2.1 外観および各部の名称

2.1.1 前面パネル



製品に向かって左側のランプ / スイッチ

10.0/15.0 ランプ
20.0 ランプ
35.0 ランプ
40.0 ランプ
Compress ランプ
Density Override ランプ

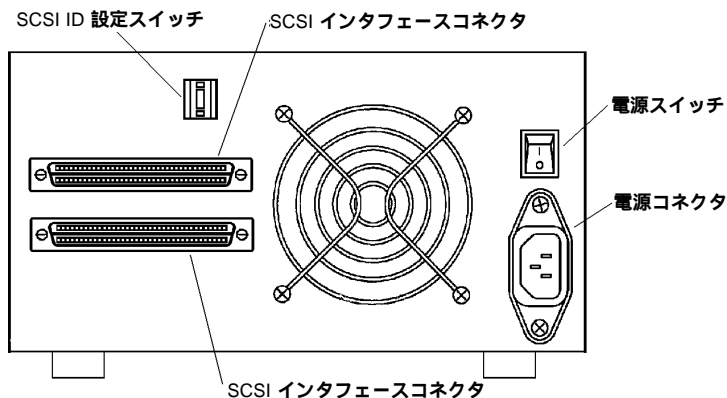
Density Select スイッチ

製品に向かって右側のランプ / スイッチ

Write Protected ランプ
Tape in Use ランプ
Use Cleaning Tape ランプ
Operate Handle ランプ

Unload スイッチ

2. 1. 2 装置背面



2. 2 各部の機能

2. 2. 1 前面パネル

ランプおよびスイッチの名称	意味および機能
10.0/15.0 ランプ (前面左)	[本製品では使用しません]
20.0 ランプ (前面左)	点灯: セットされているデータカートリッジが20GBフォーマットで記録されていることを示します。
35.0 ランプ (前面左)	点灯: セットされているデータカートリッジが35GBフォーマットで記録されていることを示します。
40.0 ランプ (前面左)	点灯: セットされているデータカートリッジが40GBフォーマットで記録されていることを示します。
Compressランプ (前面左)	消灯: セットされているデータカートリッジが非圧縮モードで記録されていることを示します。 点灯: セットされているデータカートリッジが圧縮モードで記録されていることを示します。 データ記録時の非圧縮モード / 圧縮モード切替えは、バックアップソフトウェアの設定、または『Density Selectスイッチ』で行います。

ランプおよびスイッチの名称	意味および機能																																															
Density Overrideランプ (前面左)	<p>消灯：データ記録時の非圧縮モード / 圧縮モードは、バックアップソフトウェアの設定に従います。</p> <p>点灯：データ記録時の非圧縮モード / 圧縮モードが『Density Selectスイッチ』によって指示されたことを示します。 この場合、バックアップソフトウェアの設定は無視され、非圧縮モード / 圧縮モードは『Density Selectスイッチ』にて指示されたモードとなります。</p> <p>点滅：オペレータによって『Density Selectスイッチ』が押下され、非圧縮モード / 圧縮モードを選択している最中であることを示します。</p>																																															
Density Selectスイッチ (前面左)	<p>本スイッチは、データ記録時の非圧縮モード / 圧縮モードおよび記録容量を選択する際に使用します。 本スイッチは、データカートリッジをセットした直後のみ操作有効です。</p> <p>本スイッチを押下することで、前面パネル左側にある6つのランプが切り替わりますが、本製品で使用可能なランプ状態の組み合わせは下表のとおりです。表に示すランプ状態で使用してください。</p> <table><tr><th rowspan="2">データ 記録モード</th><th colspan="5">ランプ状態</th></tr><tr><th>20.0</th><th>35.0</th><th>40.0</th><th>Compress</th><th>その他</th></tr><tr><td>非圧縮20GB</td><td>点灯</td><td>消灯</td><td>消灯</td><td>消灯</td><td>消灯</td></tr><tr><td>圧縮20GB</td><td>点灯</td><td>消灯</td><td>消灯</td><td>点灯</td><td>消灯</td></tr><tr><td>非圧縮35GB</td><td>消灯</td><td>点灯</td><td>消灯</td><td>消灯</td><td>消灯</td></tr><tr><td>圧縮35GB</td><td>消灯</td><td>点灯</td><td>消灯</td><td>点灯</td><td>消灯</td></tr><tr><td>非圧縮40GB</td><td>消灯</td><td>消灯</td><td>点灯</td><td>消灯</td><td>消灯</td></tr><tr><td>圧縮40GB</td><td>消灯</td><td>消灯</td><td>点灯</td><td>点灯</td><td>消灯</td></tr></table>	データ 記録モード	ランプ状態					20.0	35.0	40.0	Compress	その他	非圧縮20GB	点灯	消灯	消灯	消灯	消灯	圧縮20GB	点灯	消灯	消灯	点灯	消灯	非圧縮35GB	消灯	点灯	消灯	消灯	消灯	圧縮35GB	消灯	点灯	消灯	点灯	消灯	非圧縮40GB	消灯	消灯	点灯	消灯	消灯	圧縮40GB	消灯	消灯	点灯	点灯	消灯
データ 記録モード	ランプ状態																																															
	20.0	35.0	40.0	Compress	その他																																											
非圧縮20GB	点灯	消灯	消灯	消灯	消灯																																											
圧縮20GB	点灯	消灯	消灯	点灯	消灯																																											
非圧縮35GB	消灯	点灯	消灯	消灯	消灯																																											
圧縮35GB	消灯	点灯	消灯	点灯	消灯																																											
非圧縮40GB	消灯	消灯	点灯	消灯	消灯																																											
圧縮40GB	消灯	消灯	点灯	点灯	消灯																																											
Write Protected ランプ (前面右)	<p>点灯：セットされているデータカートリッジは、書込み禁止の設定になっています。</p> <p>消灯：セットされているデータカートリッジは、書込み許可の設定になっています。</p>																																															
Tape in Use ランプ (前面右)	<p>消灯：データカートリッジがセットされていません。</p> <p>点灯：データカートリッジがセットされ、本製品は動作可能な状態で待機中です。</p> <p>点滅：本製品は動作中です。</p>																																															

ランプおよびスイッチの名称	意味および機能
Use Cleaning Tape ランプ (前面右)	<p>消灯：クリーニング実施の必要はありません。また、クリーニングカートリッジを取り出した際に消灯した場合は、クリーニング動作が成功したことを示します。</p> <p>点灯：本製品に対し、クリーニングを実施する必要があります。 また、クリーニングカートリッジを取り出しても、本ランプが消灯しない場合は、クリーニングカートリッジが寿命です。 新しいクリーニングカートリッジでもう一度クリーニングを実施してください。 クリーニング成功後、データカートリッジをセットした直後に本ランプが再点灯する場合は、データカートリッジが傷んでいます。新しいデータカートリッジに交換してください。</p> <p>点滅：現在使用中のデータカートリッジの不良を検出しました。 クリーニングを実施後、新しいデータカートリッジを使用してください。</p>
Operate Handle ランプ (前面右)	<p>消灯：前面パネルの『カートリッジハンドル』を引き上げることはできません。</p> <p>点灯：前面パネルの『カートリッジハンドル』を引き上げることができます。</p>
Unload スイッチ (前面右)	<p>データカートリッジの取り出しに先立ち本スイッチを押下します。 スイッチが押下されると、本製品はカートリッジ内にテープを巻き取ります。巻き取り動作が完了し、『カートリッジハンドル』を引き上げることが可能になると、前面パネル右側の『Operate Handleランプ』が点灯し、データカートリッジ取り出し可能状態になります。</p>

Point

なお、前面パネル左側のランプの全て、または右側のランプの全てが同時に点滅している場合は、本製品が故障したことを示します。この場合は、電源を一旦切断し、再度投入します。それでも故障が復旧しない場合は、弊社担当保守員にご連絡ください。

2.2.2 装置背面

コネクタおよびスイッチの名称	機 能
電源スイッチ	『 』側を押すと電源が投入され、『 』側を押すと電源が切断されます。
電源コネクタ	本製品に付属の、電源ケーブルを差し込みます。
ＳＣＳＩ インタフェースコネクタ	ＳＣＳＩ ケーブルを用いて、ＰＲＩＭＥＲＧＹシリーズ本体装置または他のＳＣＳＩ 機器に接続するためのコネクタです。
ＳＣＳＩ ＩＤ設定スイッチ	ドライブ番号の設定に使用します。ドライブ番号の設定については、６ページを参照ください。

2.3 ドライブ番号の設定

■ 設定方法

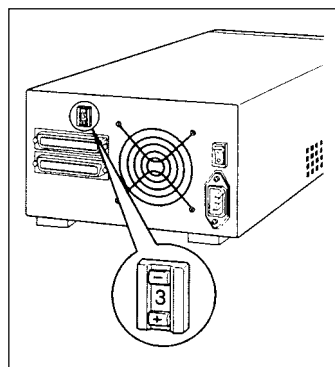
本製品背面のＳＣＳＩ ＩＤ設定スイッチでドライブ番号を設定します。

+を押すことで番号が１増え、-を押すことで番号が１減ります。

■ 設定上の注意

本製品の設定スイッチは、０～１５に変更可能ですが、ご使用されるソフトウェアで特に指定の無い場合は、『５』に設定してください。

また、他のＳＣＳＩ 接続機器に設定した番号や、本体装置のＳＣＳＩ ボードに設定した番号（一般的に７または０）と同じ番号に設定しないでください。



2.4 接続のしかた

本製品を、PRIMERGY シリーズ本体装置と接続する方法は以下のとおりです。

電源を切ります。

本体装置および周辺機器の電源を切り、電源コードをコンセントからはずします。

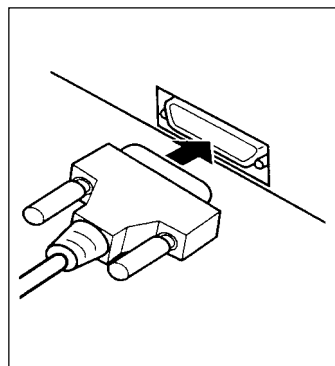
Point

電源を切らずに接続を行った場合、感電の恐れや、本製品および本体装置の故障の原因となります。

② S C S I ケーブルを接続します。

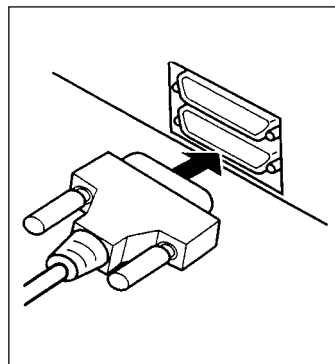
本体装置の S C S I コネクタに、S C S I ケーブルを接続します。

その際、S C S I ケーブルが抜けないように、両側のネジで固定します。



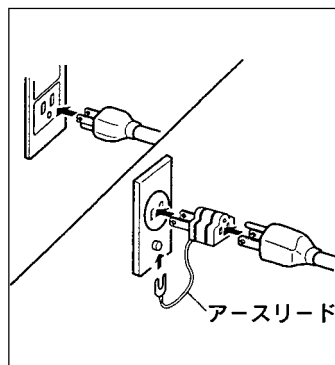
③ 本製品の 2 つあるインタフェースコネクタのどちらか一方に S C S I ケーブルを接続します。次に残りのインタフェースコネクタに、終端抵抗または他装置との S C S I ケーブルを取り付けます。

その際、S C S I ケーブルが抜けないように、両側のネジで固定します。



④ 電源ケーブルを接続します。

本製品に添付の電源ケーブルを、本製品と電源コンセントに接続します。電源コンセントが2穴の場合は、本製品に添付のアダプタプラグを取り付けてから、コンセントに接続します。アダプタプラグを使用する場合は、アースリードを必ずアース端子に接続してください。



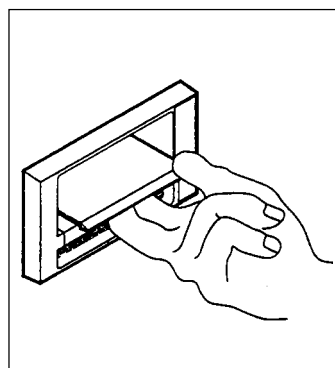
2.5 操作方法

2.5.1 データカートリッジのセット

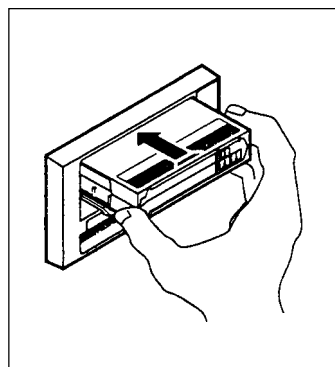
- ① 『Operate Handleランプ』(緑)が点灯していることを確認し、カートリッジハンドルを引上げます。

Point

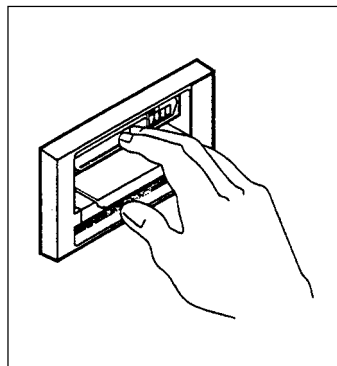
『Operate Handleランプ』が点滅している場合は、一旦カートリッジハンドルを下ろし『Operate Handleランプ』が点灯してから再度ハンドルを引上げます。



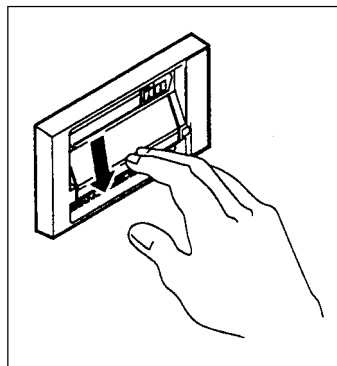
- ② データカートリッジの向きに注意して挿入します。



- ③ データカートリッジを押し込みます。



- ④ カートリッジハンドルを静かに下ろします。
『Operate Handleランプ』が消灯し、『Tape in Use ランプ』が点滅し始めます。『Tape in Use ランプ』の点滅が点灯に変わったらセット完了です。

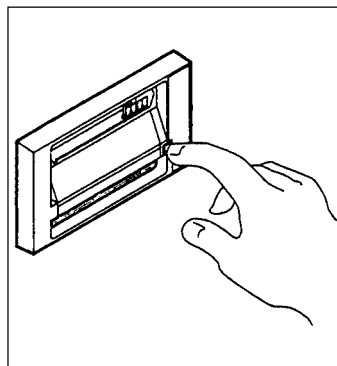


■ データカートリッジのセットにおける注意

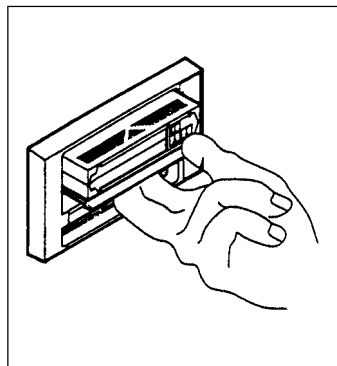
電源が投入されていない状態では、データカートリッジのセットはできません。

2.5.2 データカートリッジの取り出し

- ① 前面パネル右側の『Unloadスイッチ』を押下します。『Tape in Useランプ』（黄）が点滅し、テープの巻き取りが始まります。



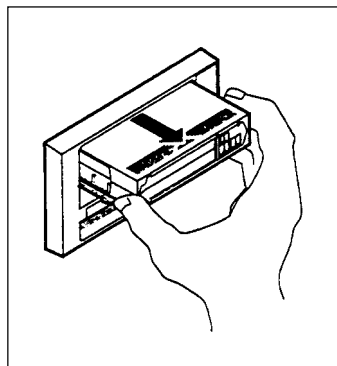
- ② 『Operate Handleランプ』(緑)が点灯することを確認し、カートリッジハンドルを引き上げます。



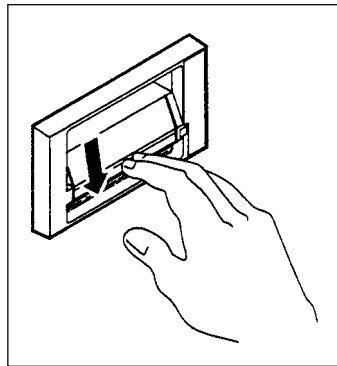
- ③ ハンドルを引き上げてから、2秒以上待ってデータカートリッジを取り出します。

⚠ 注意

ハンドルの引き上げ後、直ぐにカートリッジを取り出すと、テープ先頭部分が損傷する恐れがあります。



- ④ カートリッジハンドルを静かに下ろします。



⚠ 注意

■ データカートリッジの取り出しにおける注意事項

- ・ データカートリッジの取り出しは、本製品の電源を切断する前に行ってください。取り出し操作中に電源を切断すると取り出し操作が失敗し、データカートリッジおよび本製品が破損する恐れがあります。
- ・ 取り出したデータカートリッジは、専用のプラスチックケースに格納し保管してください。ケースに格納せずに保管した場合、データカートリッジの寿命が短くなります。

2.5.3 クリーニングの方法

前面パネル右側の『Use Cleaning Tape ランプ』（黄）が点灯または点滅した場合は、クリーニングカートリッジによるクリーニングを実施しなければなりません。

- 『Use Cleaning Tape ランプ』の点灯
『Use Cleaning Tape ランプ』が点灯した場合は、以下の手順に従ってクリーニングを実施してください。
 - ① 『Operate Handleランプ』（緑）が点灯していることを確認し、カートリッジハンドルを引き上げます。
 - ② クリーニングカートリッジを挿入します。
 - ③ クリーニングカートリッジを押し込みます。
 - ④ カートリッジハンドルを静かに下ろします。
『Operate Handleランプ』が消灯し、『Tape in Use ランプ』が点滅を始め、クリーニング動作が自動的に実行されます。
 - ⑤ クリーニング動作が完了すると、『Operate Handleランプ』が点灯します。
 - ⑥ カートリッジハンドルを引き上げます。
 - ⑦ ハンドルを引き上げて2秒以上待ってから、クリーニングカートリッジを取り出します。
 - ⑧ カートリッジハンドルを静かに下ろします。
- 『Use Cleaning Tape ランプ』の点滅
『Use Cleaning Tape ランプ』が点滅した場合は、現在使用中のデータカートリッジが損傷しています。クリーニングを実施後、新しいデータカートリッジに交換してください。
- クリーニングを実施しても『Use Cleaning Tape ランプ』が消えない
クリーニングカートリッジの使用が20回を超え、使用できなくなっています。新しいクリーニングカートリッジを使用し、再度クリーニングを実施してください。
- クリーニング実施後、データカートリッジをセットすると直ぐに『Use Cleaning Tape ランプ』が点灯
『Use Cleaning Tape ランプ』が点滅した場合は、現在使用中のデータカートリッジが損傷しています。
新しいデータカートリッジに交換してください。

3 運用について

- ・ バックアップにおける媒体のローテーション運用
データのバックアップ処理において、毎回、同じ媒体を使用して、前回バックアップしたデータを上書きしていると、万一、バックアップ処理中に磁気ディスク装置に故障が発生した場合、データが失われる危険があります。
媒体をローテーションして運用することにより、このような場合も被害を少なくすることができます。
データのバックアップは複数のデータカートリッジをローテーションして使うことをお勧めします。
- ・ 本製品は定期的なヘッドクリーニングは不要ですが、ヘッドにゴミが付着した場合等に装置がヘッドクリーニング要求状態となることがあります。
ヘッドクリーニング要求状態となった状態では装置を使用することができませんので、クリーニングカートリッジは紛失しないようご注意ください。
- ・ ヘッドクリーニングを行った後は、クリーニングカートリッジに添付されているラベルを使用して、必ずクリーニングカートリッジの使用回数を記録してください。クリーニングカートリッジの使用可能回数（20回）を過ぎている場合、クリーニングを行ってもクリーニング効果はありません。（装置のクリーニング要求状態が解除されません）
- ・ 装置に媒体を入れたまま運用すると媒体を劣化させるため、使用後は媒体を装置から取り出してください。
- ・ データ圧縮率は、標準的に約2倍となりますが、圧縮するデータの内容により変化します。
バックアップ対象のデータが既にデータ圧縮処理されている場合、圧縮効果は期待できません。
- ・ データ圧縮率がn倍となった場合、媒体に書き込まれるデータ量がn分の1に減少するため、媒体とドライブ間のデータ転送速度は見かけ上n倍となります。（ただし、最大でもSCSIインタフェースの最大転送速度を超えることはありません）
- ・ 装置交換、ファームウェアアップデート、またはハードウェアの設定変更を実施した時には、ソフトウェアの再設定（例：ARCserveのデバイスグループの環境設定）や復旧用のフロッピーディスクの再作成（例：ARCserveのDisaster Recovery Optionのフロッピーディスク）が必要になる場合があります。この作業を実施しないとバックアップができなかったり、復旧時に復旧できなかったりするので必ず実施してください。必要であれば担当のSEに連絡し、確認をお取りください。詳しくはソフトウェアの取扱説明書に記載しておりますのでご確認ください。

- ・ 本装置で記録密度に40GBを指定して書き込んだデータはDLT7000ユニット(PG-DL351/GP5-DL351/GP-DL351*)およびDLT4000ユニット(PG-DL201/GP5-DL201/GP-DL202*)で読み取ることはできません。
フォーマット種類とDLTユニット対応表を下表に示します。

	DLT4000ユニット	DLT7000ユニット	DLT8000ユニット
DLT4000フォーマット(20GB)			
DLT7000フォーマット(35GB)	×		
DLT8000フォーマット(40GB)	×	×	

：読み込み / 書き込み可能 ×：読み込み / 書き込み不可

*：2000年7月現在出荷中の型名

4 カートリッジについて

(1) 使用媒体

- ・本製品には下記の媒体をお使いください。

品 名	商品番号	出荷単位	備考
データカートリッジ DLT IV	0160110	5 巻	DLT Tape IV 外形寸法 : W 105.7 × D 105.4 × H 25.4 質量 : 223g
クリーニング カートリッジ DLT	0160120	1 巻	20回使用可

(注) データカートリッジは消耗品です。使用回数 1 0 0 0 回を目安に媒体を交換してください。データカートリッジの寿命は動作状態や設置環境(温度、湿度など)によって変化します。クリーニングを実施しても媒体エラーが発生するようであれば、テープが劣化している可能性がありますので媒体を交換してください。

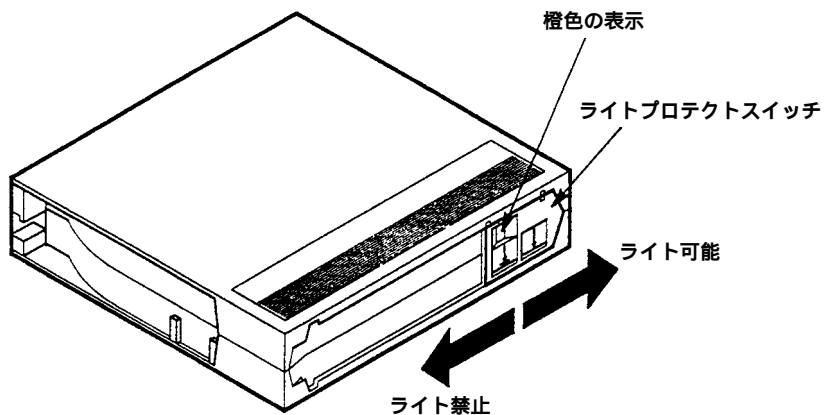
(2) 媒体の取扱い

- ・結露を避けるため、急激な温湿度変化(15 / h, 20 % / h)を与えないでください。
- ・使用環境が変わった場合は、新しい環境のもとで24時間以上置いて媒体を環境になじませてください。
- ・使わない時は、専用のプラスチックケースに入れてください。
- ・落としたり、衝撃・振動を与えないように注意してください。
- ・ほこり、油等が着かないように清潔にしてください。
- ・フタを開けたり、中のテープに触ったりしないでください。
- ・強磁界を発生する機器(モータ、スピーカ等)に近づけないでください。

Point

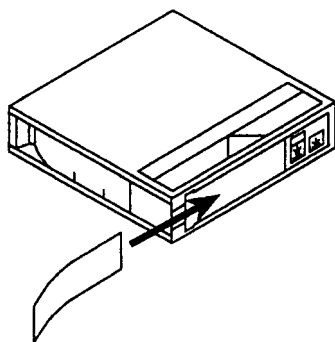
落としたり、衝撃・振動を与えたりした媒体は、内部で壊れている場合があります。このような媒体をご使用になると装置を故障させる恐れがありますのでご使用にならないでください。

- ・ 書き込み保護について
データカートリッジには書き込み保護スイッチがついています。



- ・ 媒体へのラベル表示について
データカートリッジにラベルを表示する場合は、カートリッジに添付されているラベルを使用してください。ラベルは決められた位置（書き込み保護スイッチ横）に取付け、カートリッジの上下、左右、後にはラベルを付けないでください。

正しいラベルの位置



(3) 媒体の保管

- ・データカートリッジを保管する場合は、以下の環境条件を守る必要があります。

データが記録されていない場合	温度：16～32℃ 相対湿度：20～80%（結露しないこと）
データが記録されている場合	温度：18～28℃ 相対湿度：40～60%（結露しないこと） 磁場環境：4000A/m 未満

また、以下の点にご注意ください。

- 専用のプラスチックケースに入れてください。
- 直射日光に当てないでください。
- C R Tディスプレイ、ビデオ、スピーカ、モータ等、強い磁界を発する機器に近づけないでください。

5 仕様

項 目		外付けDLT装置 (40GB) PGSDL401
ドライブ		D L T 8 0 0 0
非圧縮データ記憶容量		4 0 G B / 巻
データ	媒体-Drive間	6 . 0 M B / s
転送速度	SCSIインターフェイス上	最大 2 0 . 0 M B / s
データ圧縮機能		あり
データ記録密度指定		2 0 G B、3 5 G Bまたは4 0 G B
トラック数		2 0 8 トラック
ビット記録密度		9 8 , 2 5 0 bpi
トラック密度		4 1 6 tpi
エラーレート		訂正不能なエラー発生 1×10^{17} ビット Readに1回
ホストインタフェース		FAST & WIDE SCSI Single-Ended/LVD
消費電力		最大 5 6 W
外形寸法 [mm]		W 2 2 9 × H 1 2 4 × D 3 2 5
質量		6 . 6 k g
動作時環境条件		温度：1 0 ~ 3 5 , 温度勾配：1 0 / h以下 湿度：2 0 ~ 8 0 % , 湿度勾配：1 0 % / h以下 結露しないこと。
電源条件		A C 単相 1 0 0 V , 5 0 / 6 0 H z

データ圧縮率は、標準的に約2倍となりますが、圧縮するデータの内容により変化します。

Memo

Memo

Memo

PRIMERGY
外付けDLT装置(40GB)
(PGSDL401)
取扱説明書
P3FY-1680-01-00

発行日 2001年7月
発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本はお取り替えいたします。


FUJITSU